

山形市名誉市民

No	氏名	顕彰年月日	名誉市民となった主な事績
1	かなうち ちょうべえ 叶内 長兵衛氏	昭和29年12月22日	明治34年から41年間山形市議会議員として地方自治の発展に貢献し、その間17年間にわたり市議会議長の重責を果たし、今日の山形市政の基礎を築いた。また、地方産業の発展のため、大正3年山形殖産株式会社（後の株殖産銀行）を設立、以後庶民の福利と貯蓄者の安全を目的とし、また無尽の金融界の発展のみならず、県内の産業界の隆盛に力を尽くした。
2	おおぬま やすきち 大沼 保吉氏	昭和29年12月22日	大正6年、山形市議会議員に当選、以来昭和7年11月まで市名誉職参事会員、都市計画山形県地方委員会委員等を務めるとともに、昭和7年、山形市長に就任。以来昭和19年12月まで3期にわたり、円満なる人格、熟達した政治手腕と経済人としての優れた見識によって、市財政の確立、市政の改革と振興に努力した。
3	すずき せいすけ 鈴木 清助氏	昭和46年7月1日	昭和2年3月から山形県体育会副会長、昭和21年9月から山形県体育協会の初代会長、昭和26年結成の山形市体育協会の顧問となるとともに、率先して育成指導にあたり競技力を大きく向上させた。また、各種大規模大会を先頭に立って完遂するなど、長年にわたり体育の振興、育成に尽力した。
4	ゆうき みつさぶろう 結城 光三郎氏 あいそうか (哀草果)	昭和46年7月1日	20歳にして故斎藤茂吉に師事し、大正3年アララギ歌会に入会、以来50有余年にわたり、研鑽に励み、アララギの道統を伝えるとともに、茂吉の後を継いで朝日新聞歌壇の選者を務めるなど、全国的に活躍した。また、山形県歌人会会長、山形県芸術文化会議会長、あるいは山形新聞短歌稿の選者として、本県の芸術文化の向上に努めた。
5	おおくぼ だんぞう 大久保 傳藏氏	昭和58年4月1日	昭和29年11月から昭和41年11月までの12年間、山形市長として、18か村の合併、行財政の充実、都市施設の充実、都市建設事業の推進などに抜群の功績を残し、本市発展の基盤を築くとともに、山形県、東北及び全国の市長会の会長又は副会長として地方自治体の強化に尽くした。
6	ゆうき けんぞう 結城 健三氏	平成5年3月22日	大正6年、十代の若さで本格的に短歌の道を志し、大正8年には、北原白秋の「日々歌壇」に初投稿、その後、中央の歌壇に数々の秀歌を発表、優れた歌風が多くの人々に深い感銘を与えた。昭和22年、金雀枝（えにしだ）短歌会を創設し、以来主宰者として、卓越した指導力を発揮するとともに、毎日、朝日、山形新聞等の短歌選者として、また、山形県歌人クラブ会長として、短歌の普及、交流等に尽力した。
7	かなざわ ただお 金澤 忠雄氏	平成6年12月21日	昭和41年11月、山形市長に就任、以来7期28年間にわたり在職した。「市民直結の市政」を信条に、その温厚・誠実な人柄に多くの信頼を集めながら、卓越した行政手腕を遺憾なく発揮し、市民福祉の向上・市勢の発展・地方自治の進展に大きな功績を残した。また、28年間にわたり山形県市長会会長を務めるとともに、東北市長会、全国市長会でも要職を歴任し、地方自治体の連携強化と行財政基盤の確立に貢献した。
8	たかはし たかじ 高橋 高治氏 けいてん (敬典)	平成8年7月1日	昭和10年から鋳物職人として、伝統工芸の道一筋に精進し、特に、400年以上の歴史を持つ山形鋳物の伝統的技法を追求しながら、現代感覚を取り入れて創り出される茶の湯釜は、芸術性に優れたものとして高い評価を得た。平成8年4月には工芸技術部門の茶の湯釜における重要無形文化財保持者（人間国宝）として認定されるなど、山形鋳物の発展と地域産業の振興に大きく貢献した。
9	いしざか きみしげ 石坂 公成氏	平成13年3月23日	昭和19年、東京帝国大学医学部に入学。以来、免疫学の研究者としての道を歩む。昭和29年から昭和37年まで国立予防衛生研究所血清部免疫血清室長を務めた後、米国に渡り研究を進め、アレルギーの原因となる「免疫グロブリンE」を発見し、人類繁栄のため大きな足跡を残した。この功績により、数々の世界的な医学賞を受賞したほか、昭和49年に文化勲章、平成11年に勲一等瑞宝章を受章した。